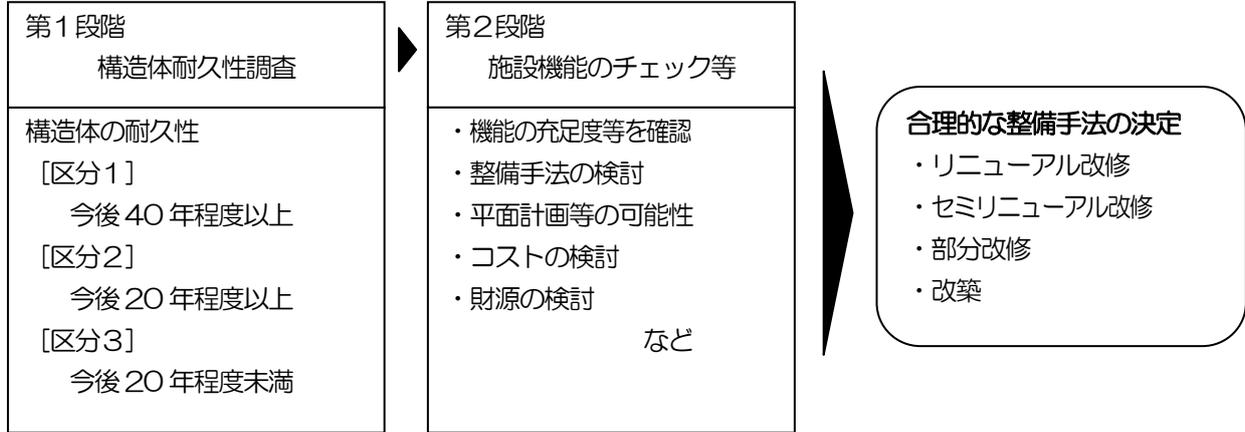


平成22年度構造体耐久性調査について（概要）

1. 目的

施設の長寿命化に向けて、この先どのくらいの期間、建物を使用することができるか、構造体の劣化の程度からその耐久性を調査しました。

2. 長寿命化に向けての検討の流れ



3. 調査対象施設

概ね築40年以上のものから歴史的建造物や建替え事業に着手したものなどを除き、調査を行っています。

今回は、平成22年度までに調査した404棟のうち、昨年度公表済みの263棟を除く141棟について掲載します。

4. 調査結果

構造体の劣化の程度から、以下の調査結果となりました。

	(学校)	(住宅)	(一般)
・今後40年程度以上の使用が期待できるもの	28棟	12棟	5棟
・今後20年程度以上の使用が期待できるもの	105棟	79棟	17棟
・今後、建物の強度確認調査を行ったうえ 耐久性の評価を行うもの	8棟	3棟	1棟
合計	141棟	94棟	23棟

5. 考察

これまでに行った調査の全件数まとめ

区分	今後期待できる建物の使用期間		計	建物の強度確認 が必要なもの	合計
	40年程度以上	20年程度以上			
学 校	45	147	192	3	195
住 宅	37	108	145	1	146
一般施設	30	29	59	4	63
計	112	284	396	8	404
	28%	70%	—	2%	—

従来、一般的な市設建築物では狭隘化や機能不足などを理由に概ね30年から40年で建て替えられてきましたが、今回の調査結果により構造体の面からは、一般的にいわれている耐用年数60~65年程度よりも長寿命化が期待できるものがあることがわかりました。

今後、建物の機能の充足度、長寿命化等にかかるコストなどを検討し、施設整備を適切に進めてまいります。

(参考資料) 建物の強度確認調査が必要なもの(8棟)

区分	施設名	棟	建設年
学 校	星ヶ丘小学校 (千種区)	南校舎棟(東)	1958
	富士中学校 (東区)	北校舎棟(西)	1956
	桜台高等学校 (南区)	中校舎棟	1971
一般施設	東消防署 (東区)	庁舎	1967
	瑞穂消防署 (瑞穂区)	庁舎	1966
	中保健所 (中区)	本館	1972
	教育館(教育センター分館) (中区)	教育館	1962
住 宅	山田東荘 (東区)	1号棟	1970